

平成21(2009)1月10日第115号

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

新年 明けまして

おめでとうございます
今年もよろしくお祈りします



2008年最後の授業日は、とても暖かな一日になりました。各学年や学部では、いろいろな取り組みが行われました。2年ぶりに復活した高等部(中3も参加)の“球技大会”は、半袖姿で走りまわる生徒の姿が印象的でした。初めて行った幼稚園から小学部2年生までの“お楽しみ音楽会”はタンバリン・トライアングル・すず・リコーダーを使ってクリスマスやお正月に関する曲や歌を披露してくれました。クリスマスプレゼントを交換した学級もありました。お別れするお友だちがいる学級では、名残(なごり)を惜しむかのように記念品を交換したり、一緒に写真を撮ったりしていました。いい雰囲気です。2008年が終わりました。

本日から2009年の授業が始まります。子どもたちにとって、希望にあふれる新春を迎えたことと思います。保護者のみな様におかれましても、ご健勝で幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げます。



引き続き、補習校は、子どもたちの心が安らぎ、日本語の基礎を固める国語教育の場、日本文化を受け継ぐ場、保護者同士の情報交換の場、子どもたちや保護者と教員が語り合える場になっています。今年も本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

一日(いちじつ)の計は朝(あした)にあり、一年の計は元旦にあり

「一日の計画は早朝のうちに立て、一年の計は元旦に立てるべきである。物事は、最初が肝心である。」というたとえです。

「一年の計は元旦にあり。」は、新しい年を迎えると必ず耳にする言葉であり、言い尽くされた言葉でもあります。みなさんは、どのような一年にしたい

と計画を立てましたか。

生活について、学習について、運動や文化的な活動について、趣味についてなど人それぞれに計画を立てたのではないのでしょうか。



日本の新学期である4月、現地校の新学期である8月は、子どもたちの意欲が最も高まる時期だと思いますが、新年を迎えたこの1月も、志を新たに意欲を高める時期であることにちがいがありません。

「一日の計は朝にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤(つとめ)にあり、一家の計は身(からだ)にあり」とは中国の古い書物に書かれたもの。これを「四計(一日の計、一年の計、一生の計、一家の計)」と言い、充実した人生を送るための計画の大切さを説いています。多忙な生活にまぎれ、「心」を失いがちな子どもたちや彼らを支える私たち。よく見ると、「忙」という字は「心が亡(ほろ)びる」と書きます。「心」に少々ゆとりを持ち、そして人生の目標に向かって精進を怠らない姿を子どもたちに見せられる大人でありたいと思います。

今日は、子どもたち一人ひとりに、新年の誓いや目標を紙に書かせ、意欲を高めさせた学級があったことでしょう。

第29回

海外子女文芸作品コンクール



「パナソニック賞」という特別賞を受賞しました。

【小4 A前田健斗君と指導者の岡崎尚子先生】

昨年は本校からの出品数が少ない上、入賞者が残念ながら誰もいませんでした。今年度は、「力を入れて指導し、子どもたちにいい思い出を作らせてほ

しい。」ということ、年度当初、教員に伝えていました。その結果、3名が入賞しました。補習校にとって、とても嬉しいニュースです。

12月20日、放送室において、俳句部門でパナソニック賞を受賞した小学部4年A組の前田健斗君、作文部門で優秀賞を受賞した中学部2年の堀雄希君、同じく、作文部門で佳作を受賞した小学部5年A組の高野沙織さんの表彰をしました。受賞者の保護者や近くにいた人たちからも大きな拍手をもらいました。先日、堀君の作文は、学校だよりで紹介しました。今回は前田君の俳句を紹介し、次回は高野さんの作文を紹介します。

テキサスにこげらちいそうな夏が来た

選者の評です。『アメリカ南部のテキサス州は暑いところ。真夏の暑さは中南米に負けません。それは「こげらちいそうな」暑さであるという具体的な表現が、どうしようもない暑さを思わせます。まだ夏はやってきたばかりですが、暑さはいつまで続くのかというやりきれなさも想像させるのです。ふだんの話し言葉をそのまま俳句にしたことで、いきいきとした作品になりました。』

前田君の賞は、応募総数14,675点の中でトップ10に入ったことも書き添えておきます。

私事で恐縮ですが、ブエノスアイレス日本人学校に勤務していたときに、2年連続して短歌と俳句でこのような大きな賞を児童生徒が受賞しました。今年の俳句部門の選者の言葉を借りながら、俳句について少し書きます。

俳句は五・七・五のたった十七音しかないうえに、季節の言葉である季語が入っていないといけないというルールがあります。小学校時代、初めて俳句をつくったときにこのルールを不自由に感じたものでした。俳句は“スポーツに似ている”と選者は言います。ルールの隙間(すきま)を縫って、いろいろな作戦を考え出すところに醍醐味があります。また、“ジグソーパズルに似ているかもしれない”とも言っています。形がだんだん出来てきて、あと少しというところまで来ているにもかかわらず、なかなか収まらないということがあります。たった一つの言葉を探して最後まであれこれ苦労するので、完成したときの喜びは大きなものになります。

海外子女文芸作品コンクールの俳句は、子どもたちが通う在外教育施設の場所(ヒューストン・テキサス州・米国南部地域など)の様々な特徴をいろいろな言葉で表現しながら、それを前述した俳句のルールに加えていくことで、すばらしい俳句、思い出深い俳句ができあがります。その結果として、コンクールに出品した作品が、入賞できれば最高ですね。



作文部門の優秀賞を受賞した中二堀雄希君と指導者の宗吉康子先生(左)、担任の樽谷明日香先生(右)



作文部門の佳作を受賞した小五A高野沙織さんと指導者の星野公江先生

作文部門は、応募総数3,895点の中から受賞しました。優秀賞は上位50位に、佳作は上位100位に入る賞です。入賞者のみなさん、保護者のみなさん、関係の先生、おめでとうございます。

◆パトロール当番予定表 1月17日◆

～よろしくお願ひします～

学年	順位	児童生徒氏名
★AM1	リーダー	小5 9 ハベト キャリン
2	10	星野 真輝
3	11	阿保 隼人
4	12	河内 愛奈
5	13	上野 百瑛子
6	14	安斎 良祐
7	15	原口 将
★PM1	リーダー	16 杉谷 銀治
2	17	園田 有沙
3	18	安東 梢
4	19	三浦 惇
5	20	グレイ 桜
6	21	高野 沙織
7	22	外崎 優作

<転入>

柴宮 果歩さん(幼月) 藤田 芽依さん(小4 A)
小灘 拓矢君(小6 A) 小灘 一矢君(中3 A)
ようこそ、補習校へ。わからないことがあったらお友だちや先生に尋ねてくださいね。やさしく教えてくれますよ。仲良く、楽しく一緒に学習していきましょう。どうぞ、よろしくおねがひします。